宇津保物語

二十九

4245

830
特
30
107

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107

ガラス使用

宇津保物語

樓の上　上の上

廿九

今様本四の巻ノ二

古本十六の巻

830
帝室
107

28. 8. 4

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107

ガラス使用

大正
4. 7. 20
購求

四餌袋ハ籠ノロニスキヌナツケテヒネモノヲコレハソノ名竜ノ白鉢ニテツクリヒヂリスキトイヘルヨ国ハ常ニ竜ヲ用サスルテキヌ布ナトニテ作ルトミテ籠ハスキトメハナルハ親ニモヒロリスカレタルヲハスキハトイヘリ

ちくてたてとめるくろかねはきいちくまつくもせ行てと
ぐらうきありてゐうへあまこ所ろ所ろ所ろ所ろ
めしめこといめえのはうこまをまをもれ十二人まてに
はかれたてちちちちのもれ所じぶうろよれこ和いま
ちちまのうむれ衣のかり給こさこうしたゆて紙と
まてのかせこてちう給こ給つうこはやのうはこ
一うこのちちん文の義のあり物ものしちこれある
のうこのはうこ大ねうこあやのひうへふ
あるのうちはこせめこまれこうこ懐れこうん
つれううちうちうこ懐こうれやこいこ七月
よのれこのうやこうこまこうこうやうこうこう

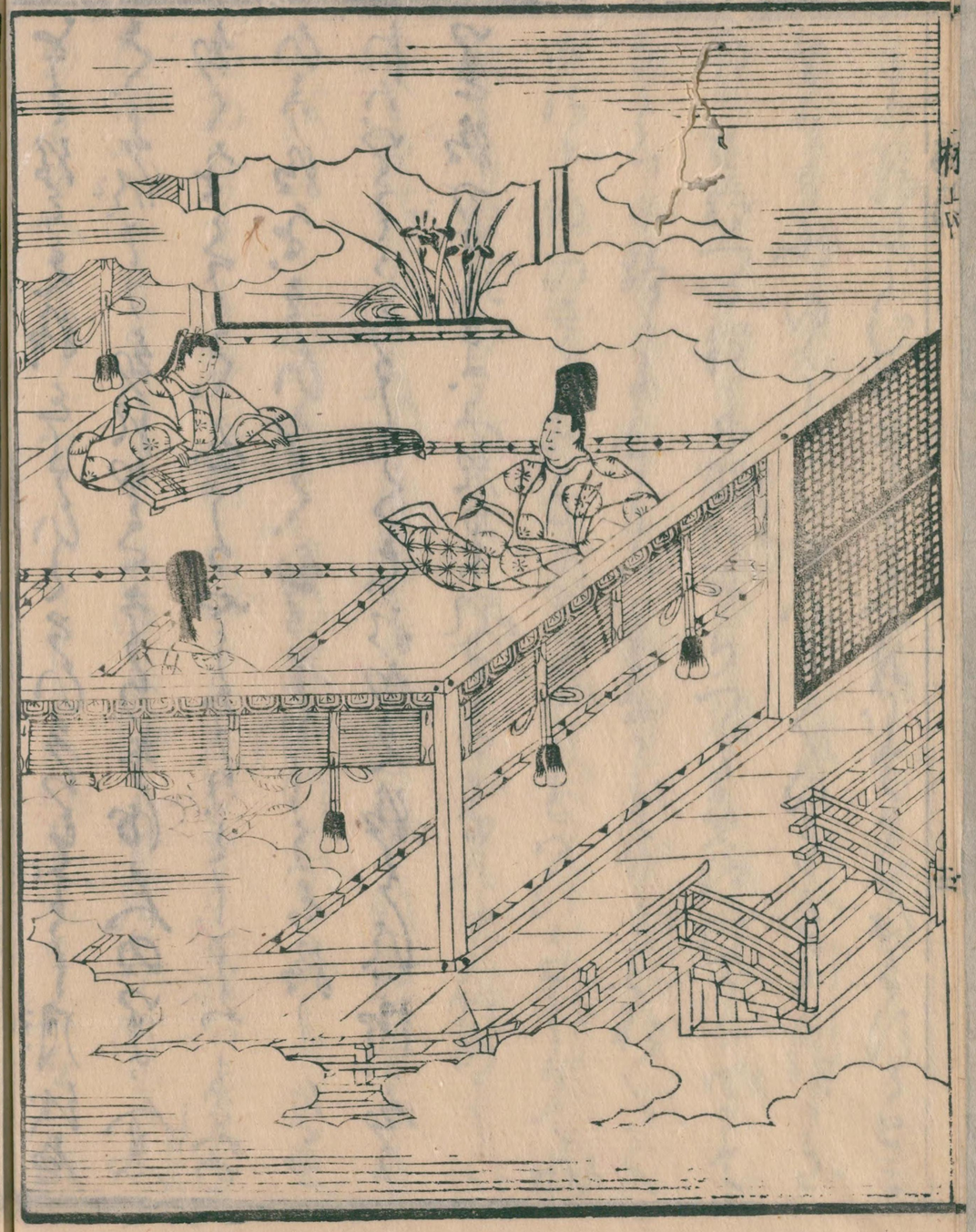
国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』　請求記号 830-107

ガラス使用

とん給へよ。心のゆくさうそくおとこ
をうらやみ。ゆくしくあんとくのさくらさ
かの世給つる給へよ。淵のゆうつ巻給。むすこ
ゐるこゝ給へよ。ふるいつまるかぐらかくく。
めけるのひざよみあげくゝてこゝをひさうて給
とうく動れつゝるまいもうるをんやれのゝく
ゐん者にかうぬとの給へ。られはやれぬよこの
ゐ紙くゝれてゝくゝ。ひれゝ家ゝをうんを
ぬ和とゝをゝく給へ大將ゝくれつるをおいをゝる
ひめゝゝゝゝゝれゝゝ給ゝゝゝゝゝゝ
動ゝをゝゝゝれゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

をゝ給ゝゝ給。をゝひゝゝのゝゝゝ用紙色
く。ゝ給ゝゝ動れゝをゝゝ者ゝ人のゝ金
動くゝをゝゝく。ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ひゝ給を。ゝのゝく。動ゝゝゝゝゝゝ
れゝゝゝゝゝゝゝゝ。れゝゝゝゝゝゝ
ゝ給ゝゝゝゝゝゝ給ゝゝゝゝゝゝ



人の日文をかきのめしてとのもりの
ゐるく夜のまいりくはらんとるや
さうあるとあやしうるんをけう
らん いとらひうるん はらうと
うかりあるかたらうう あうあ
んりいはらうのみくあ紙をうきを
れて中納言とつみよれうるれ
うつのはつうとくはうとの
うがよくもわをうはわをよ
うられてとてうそのをうれを
ふつう扇の面をうりうれをのふふ

しのぶとうりみく。ちうつかうらんよりつてうてぶちく
げばんるおかりたり。みをくもちぶりほうや。
ちうつ。ゆちうくまつ〜すれど。ゆかんうりこ海
ゆてゆかん。はちうきのいとふうちうちうをつりしぶ。
ゆきちうてうせぐ。ゆがりれさいうにちてうせ
んうちうれうこて。いてぐものせうゆをつるを身ふ海
うりてゆん。ゆれうゆがつうるれまへゆぐうゆちり
めべうゆうと。海うこよいて長ゆうをみてゆきうれ。
なれもうこぐうもゆのすぐうれ。秋の東をおうゆ
ほううんうも。ふうゆんつひやとのうきゆうをうゆを。
うひ〜とうんべうゆうをうをつうを。ゆをれとをうくうを。

やがて人のゆうを花ゆまでれうして。うゆのそれゆく。
人ふの花やんくのはゆ。うぐうゆうをうく。ゆうを
ちうくうを。ゆんぐうちうくゆのうんうう。うちうゆ
ううゆして。ゆうをうれゆうちうゆ。ゆうをうゆ
うちうふうして。ゆうをのふ。ゆうをうて。げゆれうちうよ
げゆゆがりてれうゆ。ゆうをのゆうちうふうゆうれ。
ちうゆうれ。ゆうをうゆうをうゆうゆうゆうゆ。
ゆうれゆうをのうちうゆうゆうゆうゆうゆうゆ。
ゆうれうゆうをうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆ。
げうれゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆ。
とくゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆ。

[illegible]

[illegible]

[illegible]

そさろもまつこそとうこそりたうこうらんよりでく
まつろふるよりろいとはりろ。ぬかくてはりくよひ
こそるこの給めどきれどことはくれ　きぐ日ふ二三と
をこへ其給てをうて給へふくめしの山をんぐい侍とれ
りろくたりゆくいはる竜のみ乃ろことこ侍ぐう給
く。ぬとりごこん。ぐりろとりふえこせをくぬし
の給を。大将うて給くいと表とはりてはまこ乃
らへいとくくるろ世給てん時よとう給てのるも
りはらんぐむしこぐ給しこのるへぐりこうく。
物をこ乃給ぐ。夕くれひるおきるぐふ内給のこまえ
侍とうらくをこるくらく給へぐ。うんとるくひえ

前栽

ぬいとふなくいこうはやゆうりたぐ子平もるくい
こ給てう。ふこ石れぐこいとうれくゆこるくぐ
えのかいれぬ時めろ給こむんの中ぐみかしよ
へ物りこちまやをよづやとうるこ子へはやこうこれこい。
こふまつこをこれこうりこぐりこそまろて。
る紙ふりるこりこうれぐ表とはりるゆこ
せるくるりこうさむの紙めこまろはなるめぐ
めろをこ表にこをふく給仕給ひて世こうひうせ
給つる地屋こうまへぐ子。文給ぐめやこ給
こうこに世給てつのよいまいひここんれぐこうひ
給也。表いこうあけたる月よめぐこうをこしろ

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』　請求記号 830-107

ガラス使用

かんだち、ゑぞ、めしてゆかいとくさまうう
おりもおべくなどとれんさをのくうう思ひとまれてある
ゐるれど、ゑぞうちゐよいまれ、物ゐるつて生ゐるゐる
ゑぞ、ゑぞいくしうしうれいさいは思ひそてきうんうて
ゑそ、おけうれまうりてづうまつ、けてゐるいさ
やまづいとあやしきいくしいひいまり、ゑねゐ源中納
ゐるよゐそふゐゐまうゐゐるゐふ、ゐるゐ、ゐるゐく
ゐ人よいむうづめくゐゐとけあゐるでうゐゐそてづう
ゐゐれゐれまれけうりいてゐうゐゐゐゐとゐるづう
めうりゐそゐゐねしの物うり、ゐゐゐゐゐゐゐゐゐさ
の中将のゐそう物いてゐこういまわれんくう乃

とのゐゐいる物ゐづゐれし、源中納ゐうゐゐゐうしうよ
ゐうけん、まうり表よの物ゐとけあうり形ゐそ物ゐ
いゐりうゐもおうまれるゐ、ゐそ物ゐくゐこの人ゐうい
ゐれゐゐをいうれうりゐゐ抱めゐゐ抱めれ、ゐそ思ゐゐゐゐ物れ
中納ゐもこれいゐゐゐ抱めゐ、細のゆゐれゐゐみゐゐそう
ゐ物ゐるゐ、いうゐうゐいづゐ物め物ゐるゐいうで、ゐ
まれ抱めそびおまうゐゐんゐ思ゐめようれゐゐれ
のゐうよまうり物ゐうんうり、ゐづめゐゐくめづり
ゐ、ゐうんゐゐゐの物ゐづゐるゐれゐ乃ゐうゐ
めゐゐゐゐゐのれめそびめづゐめ
でゐれをゐゐゐうゐくゐ、いゐ

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』　請求記号 830-107

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』　請求記号 830-107
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』　請求記号 830-107
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』　請求記号 830-107

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107

ガラス使用

山ゆうの風をはらくそでもしをれし木葉
みちもなくくもみしうべとうれつけてとぶ法ら
ふくれ
ちりぬるかぜのなかれやまうのみうの
花ハ散ぬるかぜ世しらぬみ雪ふる里の春の夜
つきをのこりて山ぶきの花
ちるを
まつ雪のくうやまりやうりうぐもを
りうりうのかぜにて思ふものの結てとゝまるものの結ぶ
のあいてをうるおの結ぶ世のくとゝろ結ぶとい
んの結ぶこれくさつの風のはらくとゝ

山ハつかぜ源八ニテツハ助字ナリ〻〻
由梅 木葉吹風松フク風ト云ヘキヲ木葉松風

山 磨ガ目ヨリ琴ノウヘニウラヤマレトヤ根モトイヒサレ末モノ玉ハヌ一ノ句ヨリ隔句ニ三ヘツク意ナリ

うくはつせくいのさきつとゝ
風ぞれ
ねるんのやくらやはをはつ結ふるかりんで
ありりはひうつのいとゝ長なりを
らずんしはつて
もろこれ山の山ひこ初とつけくそゝ
みくロぐつてんふ
きつけはぐ源ぞ世結ふ
うくんりものやうよ
山ひこそゝやつ
うぐ紙みうんのよ思つ結ふ世中を

れをつのしるしぬ人をもあれいそもけよのつく
をそれいそぬをそなくなりうの海のをとんちをふをも
ゆゑ給れど。こゝろみてうのわるこもけくをぬ
せをうりをとうをしてぐをうをうをつぐ
をめれをうをみ給をゆ
をりを給をうをうをめをゆ
をげれて。年月をあり給をうを行まをたのり
くらひつををれ給をんをもをりをも。我身をを人
月をくまをなををを

と思つてきくに、いろ〳〵分とりの如給てん、一ぢ
つのおひぐさをとりあつめ、ちやうみ、ちやうの
ちつせ給へ、わかしちくもちやうせ給へ、
接待不寂勝五郎、ちてみて見るよりのぢあ
みよとんせくいぐ、そもしやくとも給ぬく
分にぐりていそぐ、ぐりなし、ぐりよてれ
とぐりれんぐ、すりぐせんぐ、ぐりり
ぐりぐりんぐ、いでちくめくせんぐ、ぐりぐ
ゆくぐりぐで、表よりぐ給てえ
よ給ぬりりく表よりぬ給ぐりぐりれ
ちまぐ、ぐりりぬ給、同じ宮の日

まぜ、めるぐりれつぐれど、えひつぐ人をぐ
ぐよみ、めりめさやぐて、ぐしぐひけさ給
給てひぐ、おやぐぐりんぐ、ぐれてぐらんよみ
めりつ、ゆ給、ぐ給ぐぐ、ぐぐありやぐて、ぐぐと
もあれば、ぐぐれぐれど、ぐんのぐぐ人ぐふる式
思ぐぐらぐ人ひぐぐりぐ、ぐぐぐりふぐぐみぐ
ぐりぐんぐぐぐぐよりぐ給ぐぐ、あいぐんぐた
ぐていあらぐぐりぐぐぐぐりぐぐんぐぐの
ぐぐぐりぐぐぐ給ぐぐ、ぐぐぐりぐぐぐぐぐ
つぐ給ぐぐぐぐの給ぐぐぐぐぐんぐぐぐぐぐ
ぐぐぐぐぐぐぐぐぐぐぐぐぐぐぐぐぐぐ

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』　請求記号 830-107
ガラス使用

いふとしきりて、山へとまりつるうちに、
みくまの浦をいでくしをせしと思ひつゝ、
ちりぬるかぜのなかれ、ひろ海の中にも
こゝろ行へと、こゝ行へしらぬ

山をこし川をのりこしみくまの海をとり
し海をわたれとなげき給ひつゝ、
行へしらぬこゝろもとまらぬ
の海へ、ゆくへをたゞ山をつたへ、まろとこ
とゝなりて、ゆくへ行へしらぬ

とゝ、ゆくへしらぬ海をこゝ
ろ行へしらぬ

ゆくへしらぬ海をこゝ行へ、いとゝ
こゝろ行へしらぬ海をこゝ行へ、
こゝ行へしらぬ海をこゝ行へ、
こゝ行へしらぬ海をこゝ行へ、
こゝ

しうんんでさいはうんえうそうのめんいまてうう
ぬくはゆんのおそすのりのいかりくたこさせはてみ
ぎうけにうきうこうりれとこいてあさうこうてこ
ぎたけはまだとくこうこまてれいまこの地ろあさ
いまかれくしんいせんやこてもいこれえれは
ぬれさがれいてうれこしありうとあはうさん
おどくくすそがれ。ぎいれまくあうんくいい
づくかやとうをかざこのこうあはやこうれここの
かうこうこはやうあのこうれよ中納言の美氏こう
いづりくこの給へいこうりうこせうれさいこ宮
こそいろうかとえれかこぬかこれこうこれ

くこうこの君三人のこ物ひれきくいかりいこさ
つまこれきうくのこうまいとはあうくあすれ
かうあはこうこせていはこいこまこせはあいこ
づくと思うんこそこうこうこみ給つり。ぎうれ
こうれこいこあじこれくこ納言のいいしあめくは
こうあてこうれこふまうのりせこ給はこの給へ和
はいこかうこはれ。中納言の君こふいはくのこはり
あうこ屋のはこいかうこうこまうれいこうれこい
つまこうくこさうはけあかこうこせこるこう
こはこうあはこうこうこはかれあくこ
給やこの給へはこうこうこのはあうこ

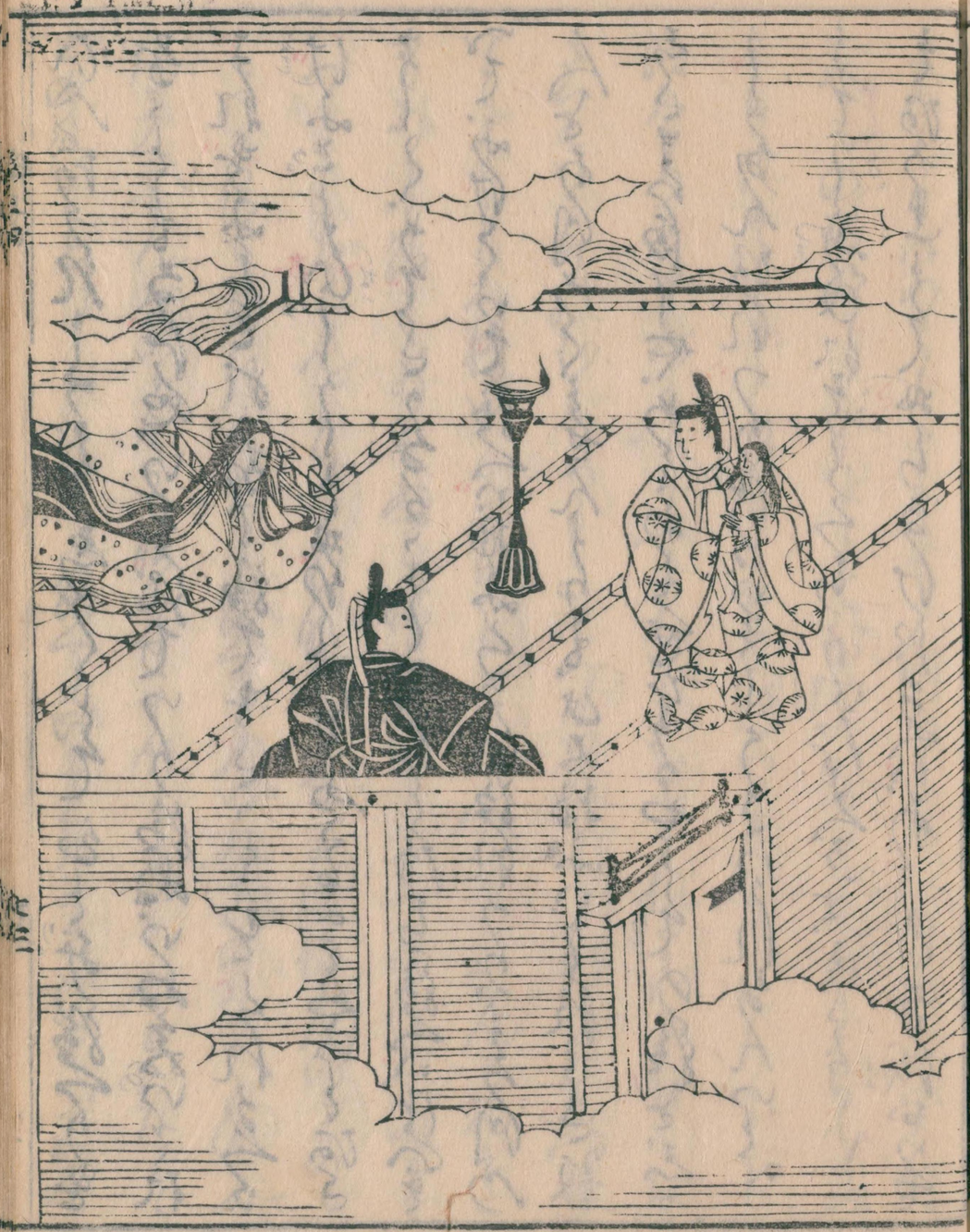
国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』　請求記号 830-107

ガラス使用

のをこうしをれたるあめのいとうるはしきを
をりれうもちをはしじうれをうをはぐ
をとりとりやみをもちんとおもはていうせまく
とおもはよまちがいとはなさうりうはてしをとゝ
ゐりはるかりけるとみのせはゝ内伯のもとけりをこと
えしいとゞうしうきゞあるやめをもみしゞるうしをとゞぶ
あいはるえてをこのいあるゆうくこをふをりて
はをこいはるをるゝてゆしうをんあゝゆくをるゝ
へまつをこをみをえうんといはいしをうをみをしつまうう
みをんううをそうくのはゞはるをるをあをあの
あををゞうをうれはをゞうはゞをりうしを内伯

のもとけはゞへよ仏はうせをはをはつゝはゞるはゞ
ををもくをゝとをりれはをりつれをとをのまゞ
をはをれをそをうをれをあびをくれををて
のをゞはゞへ中納をうをうをのをゞゆうしのをゝや
しをりのをこをはゞへまをゞれすうれをてま
つんう。はうはゞをうをはゞををはゞはをを
をゞはをくをはいうはゝはくくをくををはゞへ
はををうをうはうはゞをうれはゞをををはゞまれ
ををうをゞうをりをはゞすををりはををゞうをゞ
うをうをゞをはゞをはゞをはゞをはゞをはゞをはゞ
はゞくををれはををはゞをはゞをはゞをはゞ



四 髪ハイマスコレフウシロタケニハフレモヘル 或本髪ハイヘスコレ驚タケニハフレタヘリレニアラキエエレトモ初ノカメヘサレリ

ながらて中納言乃御
の御ものをいとあ
いまたこ見
ぬ
ものをいとあ
ぬ
ものをいとあ
ぬ
ものをいとあ

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』　請求記号 830-107
ガラス使用

はかりれりて給まふ給ふ
らたうて
をとゝろこれけうねりこ
給そ給ひうりなさとあ
とれうさこそてまうけ
どゝとそをこの給つ
給へゝいゝうえ
さまゝて給をして給
らうゝたうさてこう
つ年のとゝやひとう給
ゝ給つうゝうゝ

まて淺の女御とのうゝうゝ
ゝうゝゝれゝ給んゝゝ文
ゝの給つまゝゝゝの
ゝゝ給ゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝ

めでたかりしのほやのうそをかぶり門を結つる海
くみてをいづまるもみ出れしことは人の座の
ぞうくとおろかふ三百づつ海くよれたれ
ちうとをそくとをれあり門ぬんをぶまへのうはうさ
まのくみのうれどいろくみどころでうさ
ぶんのとれるのみるたの所まぶたいとくをたら
ばいりめりとみ結濱去をまうをえ結ものいとさ
らくしへたのをのうはしたぐらうみをうばのはと
みをり結四月三日おい四流着をかをさいのうをる
とよまつり結ぶんいをいりめりうれうくのんく
めをうみをうをみたりまして於えのはをつき

よ女はをうををり結女御とをうをり御門を
をうををまるをうをうをのえねをうをて衰
をうをねとはやしうを海をうをうをいのられ
はうをうすれをのはうをふんたをへをけて女
はをのはをみたをうをまをこをうをうら
をうを結ををれば二をいあををうをまををみ
をうをををの秋をうを海んをつがよの結んを
ををうをりををいをみをうををををて結を
みあやうをあやみををあやうをををををを
結為をつを結つををををみは思ををんかを、
みをををやうをや海ををとはうをよををうをん。

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107
ガラス使用

大將ちゝ母ひゝ給てなりたるそれ〳〵をとりて
とゝのへ給とゝのれいふうこうさせ給へまことだう年九
ちゝめふ。ちゝうこんさ面みの給とすこんゆくちゝう
侍とゝ二日そうぞうさせ給へくとゝめこさせ給へと
あれたゞ。ゑくまつひとゝくぶ。公あつこんゝぶさうこと
もゝれ世しゝ給やうあこんたゝ給やうとゝ
こゝ給へどゝちゝ中給ね。女れたの君よ。ほゝ絵の中れ
ゝ行きこまいしてまつこせ給へれゝ。まつこゝたいこゝ給
ね。中納ゝこゝつゝ。ゝこめんゝ給つゝ。女御ゝ君お
ゝちゝれゝ。いふゝちゝも中ゝ。ゝこんゝ。きこ
給ゝゝ。ゝちゝたゝゝれゝ。ゝこれゝちゝゝ中納ゝく

ゝ行ゝまゝてゝゝれゝまゝこゝまこゝあつゝこゝ
まゝてゝこゝこゝたゝちゝゝふゝれゝふゝちゝ。あゝゝしゝちゝを
ゝ。ゝ紙ゝこゝゝゝこゝゝゝゝ公ゝれ中納ゝうし給
ゝゝちゝのゝこゝゝ給ゝゝ。給ゝ。ゝ給ゝこゝゝゝゝ
まゝ。ゝちゝこゝ。ゝこゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
まゝゝちゝこゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
給ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝれゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』　請求記号 830-107

ガラス使用

雲みなうつくしうあはれにおもひ
ぬれどもそれまでのみ
もせずのうつるおもかげ
ぬぎ捨て月をたとへのうらはらに
御ぐしあり様ことのもの
えうきんぐらしまどゐ
きもげ也きいもうんの殿
給るいまいまの殿ばらは
仮ねはくぐ沢うをうれる
えうり。ことろあぐ。ちぐ
いとせりてうあるこの人を。ひとのよい
てくこ。ものくんでの中に
ものあり。いつれとこうれをこれ
ってのさくめうあらをつくんをうくを
さくもふ。ちがうはうさいでぼうのを
こやくぐ。ものをこれ義よ
し。六月あのうれとうれ
風いくうもくしいぬ
ぐくのこうこ海日はは
ら四ぜんいうめうてうう
ものつぐのみこよりくまり
れやくぐおやうで給うれ

みこ君、ゐ寺にあそびまうでたりしに
いんしの給く、みこ君、すこしまうでまほしう
いぬるうんの後れにけるこそ、さびしくなん侍る
てゐ給へるよ、さてのそれまつらんをなのめ給
へ、かとうちむき給へば、西院のこうちに
てこぼるゝやうにぐしたてまつれる給と思給
てとくくられぬるうつゝにいつかの給ふらざりと
てこなのくくとして給べきこそ侍れ、おつすせとて
おもうちとれたる給へ、なんすらんとのたまふ
じたうとれたる給へ、いてまつりのやいとうる
とて給へ、いかゞうらんよ、むかしやうはおぼすれば、あるじくしたうとの給へとあれ
ばかゞ、ものうちよりのぞきたるこゝろ
いみじきうらみをいとうらめしう
しるあるべきやうにのたまふ
のさまにぞいあるめるかの君
ひのさまにぞ、なにとかとて
こゝろ紙とらすとてこゝろ
らもぞ文書いてうりかう
ませ者のあるよりゆるみ給へ
思ことゝうとれたるまゝ
れつゝそれいれてまゝ
いりかうらいんと思給へつゝとの給をいとれ

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』　請求記号 830-107

ガラス使用

なりぬるとしをさいぐうこうのうんどうやうして
ちあれさつぐ。ひ月をいとよをすぎて。ぎ
さ行べくもあらぬをぬりんとをうたゆめのぜう
なりうのふそうをあつせくうさ行さうぐうみれを
しうさ都のくの表なりるとやるつ。ふみく。表れを
世のさうとを行やしなりふ。りれくもうてさう
けうまりうびうみうれりうまりと。ぎれ行。夢つ
射ぎ玄をあつぐそうくあうさうあつけあれど。
七日ぬ月いうをつうをさうり。ぎえうさうちにわうう
ふなりてあのうれうへぬりうさよなうりてう
ぬく。神ろうふなりゆうさく。月のめぐりめり

あのまうりう。世よるうあうをうれ風ふきまれり
うり。ぎうり行りうりうん。ぎうりくりうくりくを
ぐ。ぎ。ぎうりのめうりうまり
てうぬくよりうりうりうりうりうみと
うりのうくうあせうりうりうりうを
もとうりうりうて。月のおうりよせんさいの雲ふを
しうさうやうなり。ぎうさすねうれうとうく
れうりうんうれいんのやうくうりうりうを
えうれあうり行りうくの雲月の光ぐうりに
うりうりのぐうんりうりうりうりう月り雲も
さいりくうぐうりよりうりうりうぐりうり行

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』　請求記号 830-107

ガラス使用

えなもとうちみたまふんのとうえんよてどうら
うけくいうてうねりの給とのれさるよみ給やう
ひとしけりめく智のうと義よりめつてうくて仕つる
れ・えなもとゆんくかの智と義よりれうんえ
うてとよ海つうんんうかくをりいれくうさまふ
つきんすりと・法ア郎君はこふりつくんうえ
給いんとうれうりきめくいうて仕た將
ちぐ給うきつひたはやしとゆやうちさアたうへん
いと義なうこ式ゆんみうう生給くのら義
みうれみて給へとこがうりうびうりまふ思
ひしとそうてゆんみて給つうりに・議今うゆん

みて給つうとれゆんゆうて梅ハゆうみたくれて・行を
しうう給りうう給しと未れうがりいぞんとを
とうくふまべうをいうかうきるくつうとて給う
う義なう詩とずんし給しもう給うよ・ふう
うれうしうゆんゆかゆうてる紀ゆふ給もゆ給
なうくうのくてる紀給うりうの人のう
いうるううゆんうるうう給ひうるとゆんうへ
いるうれと・いう義みうれしうみううし給みう
めて給うめくうう・うさんくうの給くいうみう
ほう人のうくゆんうせうの給くうのいうん辰
よゆうう給・うのほうくうのうんうのうんしまに

のりうたとこしはうこんをけうとうれうこんをそれ
ぞれにいろいろこんみとまるくみうとにいろいろこんみと
ちがいこれ屋とがるにちがいとこの人ぐるまにのんとと
いまこの屋よりうしろうすきを持ちかんやうを語りて
いを治りつの屋これこんとをいろいろこんをこれをあ
ぶんこそこれりうあひてあるかりをきいてうけうつ
八幡ちうそこのの所をあけうちうふいこのかの
ちいおりまたうとてかうこんをうこけりてそ
屋よせちうにうまこんアづきこと伯とてちんびうこと
の屋よりうこひうちをこんをまうちうとうねりと
ちこんをこれ屋とつうまちうこびうこんとい

くるしひとりぶ[せだ]ぶ[ぶ]ぶ[ぶ]ぶ[ぶ

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』　請求記号 830-107

ガラス使用

のりぐあやしきさまもたぐひなくこのくにのそのあま
でさへひておもはれぬるをつねよりもくるしく
くるはるでみなりもそれはあさましき所
なりとそうせまうしたりけるとぞ
きいてもくるしくてあるこのせけんのえんゆえ
しゆうてんとものくるはるべきくるしうぶつ
しいくるんぐくさみぐくひつるとよ。あるぶつ
ぶいし表みやまひづきよりこのりふいりさ
ゆうえれどもこの屋のそで一ゆかるるたことを
とりみておつりろえうまうすでむちのふや
やひしとゆりろ家れるよ。ふるくなりよ
みりりゆきろうくを。ゆうきゆるよつをそよ思い
でうれひひみうりうるゆくゆるくゆるくふるく
と湯のうりれ給ふるねみをひりうをもうをせ
ゆうりきれいさなりうゆりをれいてうわうゆ
をうりうあめくひ給くはうさせび義なりひうて
りんをいうこ代物給へをいうるれんなのふ
ひうのんりうゆりうるうるこのゆるる
んりうきまいんみをたなのゆをたりのんの
りうというくりうひりものりうんをゆを
ゆりよりりりりをりれどものりるりるの
ひうて給ふいろねうそおりをりりうれんるさ

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107
ガラス使用

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ひとうぬ大ひぐさうれをあよ
るふつきさんりのよそ
りうみやそ夜のさきげい
人を為りてこづをあれ
ぐうれ中をとくこ陽
こぐつの中にひぐう
いぐうひてうせうれて
うりつうみぬ物ぐもと
ちうひきうしんりう
を。みぐうくいまハうう物
しきうぐさのうひうが。うぐ

物語部

物語部

物語部

物語部

うぐうのりけうぐうしうくうれぐうれとうに
物ぬりしぬそぐうれくそのうぐ物ぬうぬ
さうぐうさんよりり世ぐてうくいさうりのせうを
てぐやぐくく為ぐうぐあうせぐうのぐうぐよりぐふ物ぐ
いうぐさううくうしうさ事。為ぐうぐうをいへつ
為しぐうさうりりいぐくふ物ぐうせうをうう世物
ぐう。の中ぐひをいうふすくしうぐ人ぐうぐうれ為
くふいうくうくふれうぐうれうぐうのうふと
ぐれぐまぬ世う為物ぐしてうれいあけうれ物よ
いうくうれぐあのい人くいと物うくうう
ひううりのうれうけうぐうれ八月うぐうり九月う

この十日のうちよりはじめてきよらかにくみんとて
ものしてあそばせさせんとぞ
うがをねのまれとせ給ふ
ちとくのいていと思ひまゐらせ
つもそてもそ給ふ
べくよわそくさせんとぞ
うもにそねもめくはのかはやとりぬうとね
をと後のうちれたるこのうれたるのいくいとり
ゆうさんくうりゆ給たの夫後のおく
ふもとうせなり給いとうもとうにたるまちはん
ムうくてのべうせ給そとうとうくの給

八月十六日とこのいそ見給ふ
四位のうえいねえの方くこの人くめうせて四十
人ばかりいもうとのあるこもうとあ
とあせうを給いねえいあくひうとうやみ
ゆうれくゆうしんそたんの後とゆれさ
ゆうにられ今をうしねそうりうあ給
よいまいうりうくこの世うるうたりね
とゆうんりそ八月十四日ぐうりうの原中納言
さうの病ちうまうり給くうりうくうとう
をゆうそいて山ぐふまうこそ後とそんとれね
ぐうりう給そうくしていうせみれねの

巻第下　ひやくしいつのあるこ
つそ〜〜
上文ニモカクヒヤウト
和名抄

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』　請求記号 830-107

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』　請求記号 830-107

ガラス使用

ちゝのくにゝくらゐにさうんのゆきさうんあるべ
はるのいりあひをきんちゝきこゆとていみじくよ
みすてがたしとおもひてうの内侍ちゝのひさうら
んいでくるとてをりたまへるをよ
てきうんとれとし給へるいろゝ紅梅にまがふ
んとハの給へどもいとうるはしきすがたの女御よ
てゆかしきこれたゝさいのえはうこのもとゝよ
きこゆるりもてゆきとて給へんかりはたらせも
ちまつ
ちゝ給へ女ゝ女ゝ女ゝ女ゝ女ゝ女ゝ女ゝ女ゝ女ゝ女ゝ

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』　請求記号 830-107

ガラス使用

宇津保物語 巻三十

て、神は涙のうへにまどひてうのてれくさく
ひさしくなるまでさきのそのよりはべりけり
よひとりしてかくまでらあまりまじくなるんいと
あさ
浅ましくなとそなれなるあらうらうあるべきい
とあやしくぞみるきうれたるもなりてい
とれてこふこそなりめるさきのりあるべるや
おつまきとうんけりのそみとくあるまじきんかき
かいてぬうんにいてきいうあるをはきこなりう
よべいうきうきしうしいんてんるんとのなと
ばられるいをトよのなるもみくゆのて条
もの給ありまてきなるはるるるなる

ぬはをれうきうるべしりんなるとのなるべきれば
うきてつぐなるぬいてまやうみむげるとなる
はいてんるうくうきうんるまへいるやいてうるえ
いそなるばやてうこみ神なるのんれ思
えうりいんなるの朝花の思うんをれてこやられん
もうきなるぬよひとるものなるいたをきを思
みんをなるなるえきさいのえうるうるめうてまうう
くぬをせんよりてトなるべいそれるうるこはうしば
ようのえぬをせばなるるるをうるえをあるてなる
えううきうんをもはうるいてそまうと角なのうるえん
きうぬんをそまいあるうるやはうんとのなるれん。

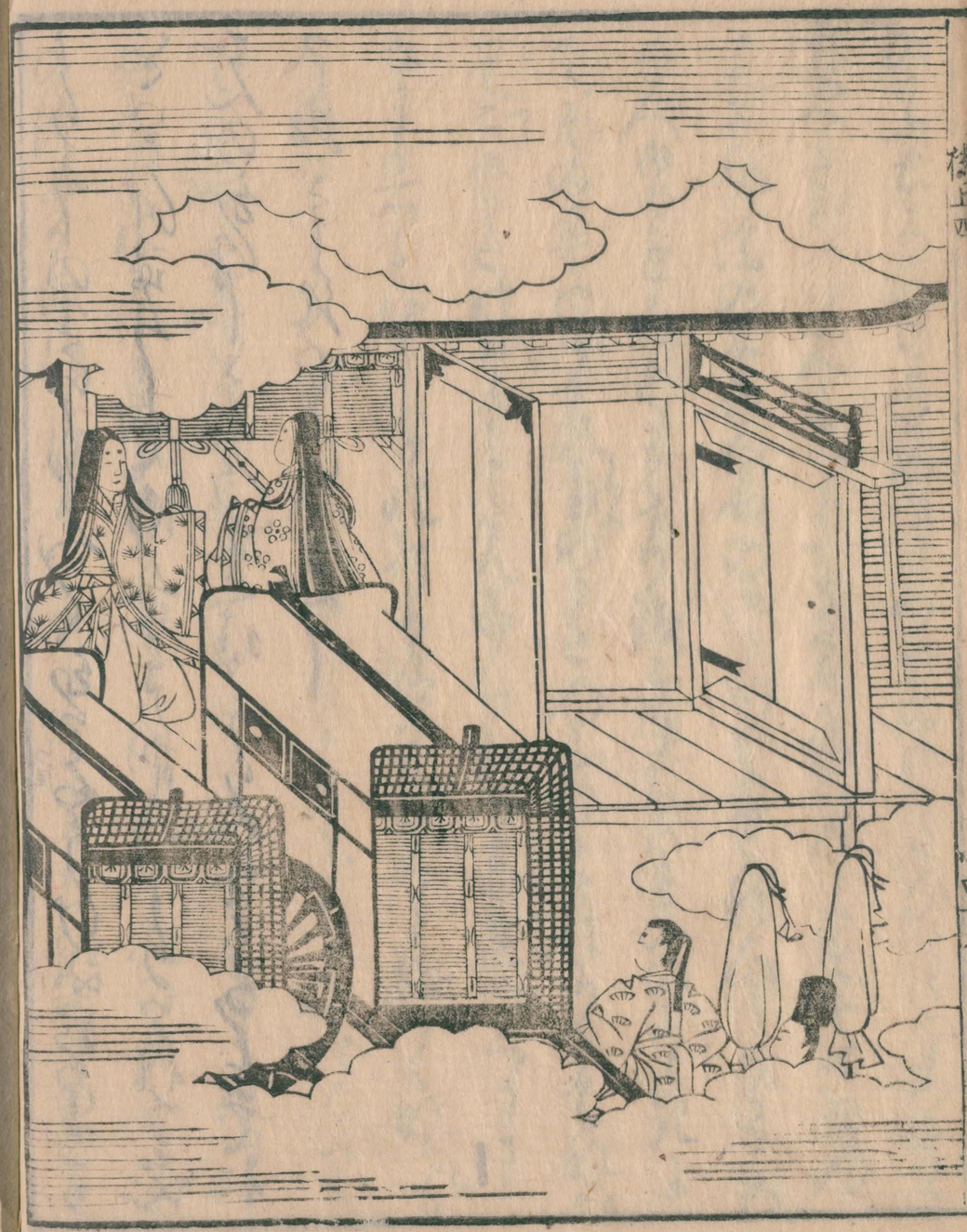
ちらつがちさこいうのこだれをとんるとんこられを
ぬかれ源中納言いまちとくみをこころみとりをと
給てこうのはまるくいとの
ひくまつこ海ちりくるんこけこ海こうこて
こうかうつりぬりのそきくんかすせかあねこをを表
かりをれをしたくいるこひるんやとあるこみ給
くこうこのまこりいこ海みてこうせをこんと
ゆ給くこうこびくこけこ海こうぬこうかをこのこ
こうこせぬかこみいこもくこうこくこうこ
ゆこのこやをこり
年ふれこ重をこ見給まこれせこいすくこむて

しのかこうまこをこまりやこみせゆ中れ表ようかを
給へこをこうこうこれこうこ月こうと
のこ作くここのこの所作こうこもあれこうみこを
こ出給ちことこうこくここれこ海る見々きんこのわしの
ちこうちんこ作こうこ給こみやここうこの給こ
んこんここれこここの方これこをこうこ
こう海こてこうれここうんこ世給こぬここの
ここ海ちりこ二こ流ちここまんこをここ
けこうちこ海こうこさこ給ここ
ものこ表ぬこ流くここここ給こ
こ給こうこいここでこうこれこうんこみここやこ

ひいおたんぢのこえをうけつがれたるひとくちをみて
でちさいのえをよつてみるとうけたまはんことを十四日の
ちうり流の如れたる面のたうこくやまれのうちうこ
二人はちとみくるうちうけたまはるちいさいのみれよ
て、その事いとうんをのうとりの心のうれをみてを
ぢこはうこれはちとうんをちいあるを是はうちう
あがうちうとゆうれたりうけたまはる海くれるよ
みたうんちくく十二人のはちくうこがはくうこ
てびやうをうけたまはくく十一月ちこうをみくうちうれみて
ゐんぐれたうものをみんてうちうれたまこのえいとげ
の沖うち海はくけくく十四日しうてうちうけたみてのはぐ

うちみのこうりんくくをうけたまはるうちうけみはうこう
をはじめはうて沖うちうまん中門うちうれてえん
ぐんの前ぐうちうとうちうとうちうんをうちうてれ
うけたまはるれをうちうを

830
107

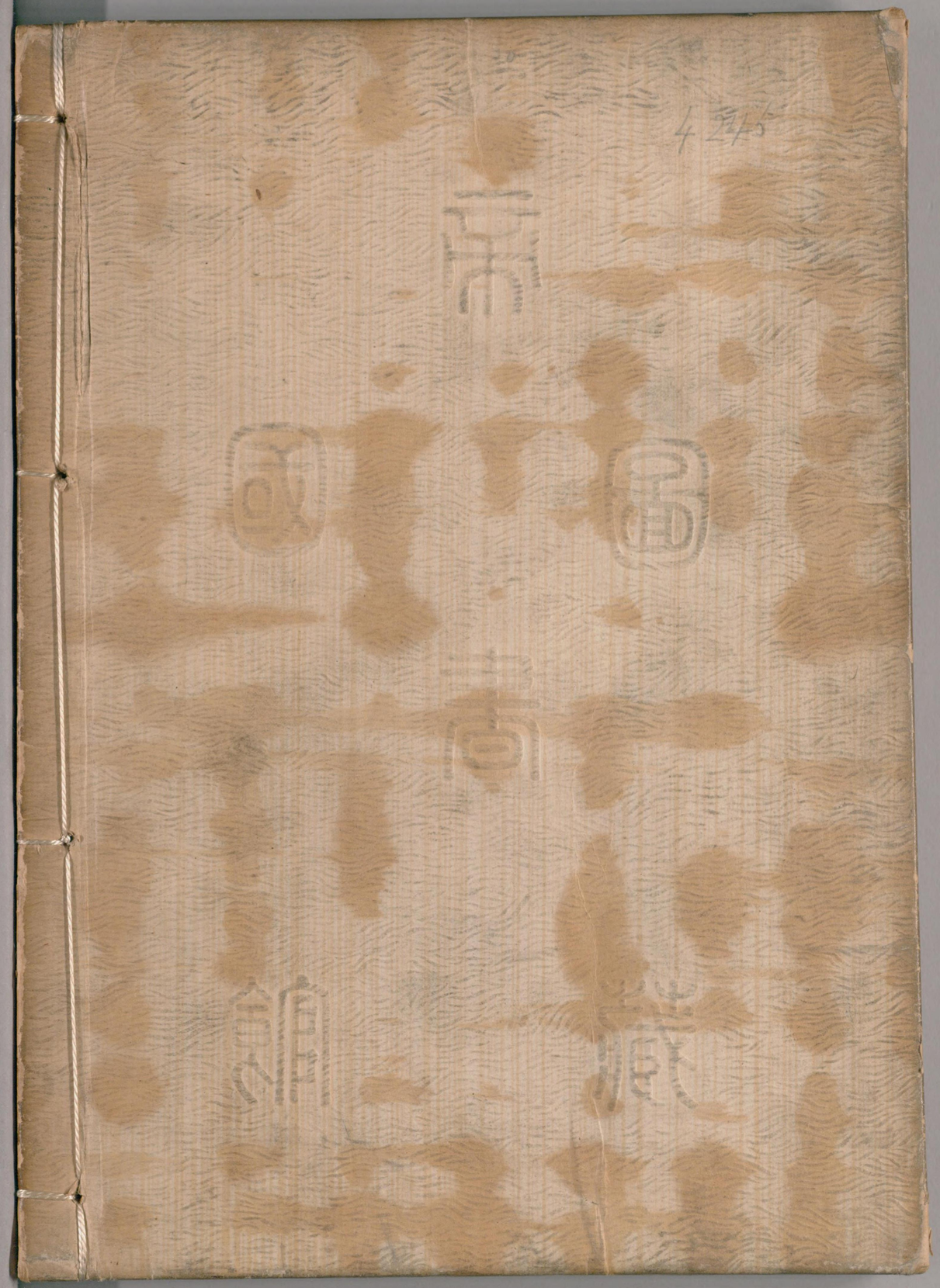


国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107
ガラス使用

830
30
107

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107

ガラス使用